

令和 7 年度 健康長寿おきなわ復活県民会議 議事概要

日時： 令和 8 年 2 月 12 日（木）13:30～15:30

場所： 沖縄県青年会館 2 階大ホール

1. 開会あいさつ（池田副知事）

県民の健康づくりと健康状態の改善に向け、県民会議版ロードマップを通じた全県的な運動を展開していく旨の挨拶が行われました。

2. 県民の健康の現状について（事務局）

(1) 働き盛り世代の課題：

働き盛り世代の健康状況の悪化が大きな課題となっています。

(2) 低い受診率：

特定健診の受診率が全国と比較して低く、外来受診率も低いため、病気の早期発見・早期治療に至らず、即入院となるケースが多く見られます。

(3) 高い有所見率：

特にBMIと腹囲が突出して高く（内臓脂肪型）、血圧や脂質、糖代謝の有所見率も高い状況です。今後は急速な高齢化に伴い、脳血管疾患を主な原因とする要介護認定者の増加が見込まれます。

3. 健康おきなわ 21 の推進について

(1) 健康おきなわ 21 推進について（事務局）

ロジックモデルを活用し、原因と結果の因果関係を明確にしたうえで進捗管理を実施しています。循環器分野では、心疾患の死亡率が悪化傾向にあり、血圧の改善も全国レベルに及んでいないため、今後は高血圧対策に注力していく必要があります。

(2) 県民会議版「ロードマップ」の取組状況報告（事務局）

県民会議の構成団体による、内部および他団体と連携した取り組み（「チャーガンジューおきなわ・休肝日」の実践、健康経営の推進、情報共有など）の実施状況が報告されました。

県の独自の取り組み例として、職員の健診受診率 100%の目標推進、血圧測定トライアル、ウォーキングイベントの実施などが紹介されました。

(3) おきなわ脳卒中・心臓病等総合支援センターについて（琉大病院 國場助教）

循環器病対策基本法に基づき設立され、患者支援（相談窓口、職場復帰への両立支援）、医療従事者向けの研修、県民への予防啓発活動（ライトアップや市民公開講座等）を行っています。

沖縄県の脳卒中の特徴として、働き盛り（50 代～60 代）の男性における「脳出血」の割合

が全国と比べて高いことが挙げられました。

これに対する最も重要な対策として、県全体での血圧管理（目標血圧 130/80 未満）の意識向上に向けた予防啓発に尽力する方針が示されました。

(4) 沖縄県医師会長コメント（田名会長）

脳血管・心臓疾患は予防可能であるにもかかわらず、健診で異常を指摘されても病院に行かない県民が多いことから、県民のヘルスリテラシーの向上が急務です。「健康長寿復活プロジェクト」として「血圧を測ろう」を提唱しており、身近な職場への血圧計設置などを推奨しています。

医療界だけでなく、他団体とも広く連携したポピュレーションアプローチ（集団全体へのアプローチ）に取り組んでいくことが重要です。

4. 意見交換（各団体の取り組み紹介）

(1) 沖縄県保健医療福祉事業団：

約 20 の団体と連携して「県民健康フェア」を実施。今後は小中高校生などの若年層向けに内容を充実させていく予定です。

(2) 全国健康保険協会（協会けんぽ）沖縄支部：

健診受診率向上のため、健康経営優良事業所の表彰や、商業施設等での街角健診を実施。特に、被扶養者（家族）へ向けた事業主連名での受診勧奨が高い効果を上げています。

(3) 沖縄県学校栄養士会：

食育読本を活用し、低学年・中学年・高学年ごとに「チャーガンジューおきなわ」のテーマ（野菜、朝食、油控えめ等）と連動した授業を実施しています。

5. 閉会あいさつ

池田副知事からの退任の挨拶に続き、糸数保健医療介護部長からこれまでの健康長寿に向けた取り組みの振り返り（330 ショック等）がありました。最後に、普及啓発の一環として部長自ら三線を弾き、「チャーガンジューおきなわ」のテーマを乗せた歌を披露して閉会となりました。